

【学力向上フロンテースクール用中間報告様式】(小学校用)

都道府県名	和歌山県
-------	------

学校の概要 (平成 15 年 4 月現在)

学校名	和歌山市立東山東小学校								
学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	10
児童数	26	27	31	27	31	26	3	171	

研究の概要

・ 研究主題

一人一人が生き生きと活動し，豊かに表現する子ども 一人一人にそったきめ細かい指導

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

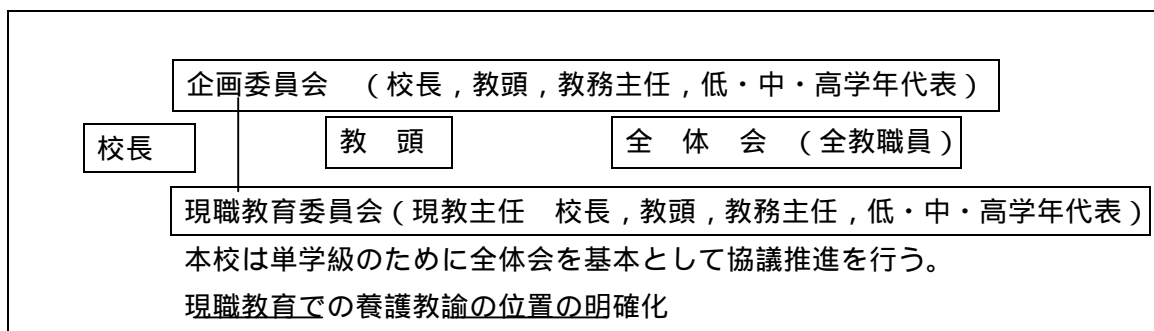
<ul style="list-style-type: none"> ・ 全学年が担任の研究実践をしたい教科で研究を行なう。 全学年単学級のために全校あげて取り組む。 担任の研究視点と実践教科と昨年度まで取り組んできた教科国語科の研究成果を大切に して研究に取り組む。 ・ 1・2年は T・T の指導形態を取り入れる。

(2) 年次ごとの計画

平成 15 年 度	テーマ 「一人一人が生き生きと活動し，豊かに表現する子ども」 一人一人にそったきめ細かい指導 研究の見通し 教育活動において，次のような取り組みで，確かな学力が身につく，学ぶ楽しさやわ かる喜びを体得して一人一人が生き生きと活動し自分の考えを豊かに表現できる子ど もを育成する。 (1)学級経営の充実 (2)子ども一人一人が納得しわかる授業 (3)学習意欲の持続とその高揚 (4)子どもが生きる教材の発掘 (5)東山東タイムの充実 研究内容や方法 (1)子ども一人一人が納得しわかる授業の創造 ○子ども一人一人の考えや疑問やこだわり，子どもの考えの根拠の違いを生かす授業展 開の工夫 ・どの子を「いつ，どのように活動させ，どんな子どもに」という子どもが生きる単元全体の 活動指導計画の作成
--------------------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・既習を生かした学習課題からの導入 (2)学習意欲の持続と高揚の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ○学習に立ち向かう構えや意欲を生み出させる教材と提示の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの興味関心の根拠やそのことがらの違いを生かした提示 ・学習が子どもの疑問や考えでつなぐ ・書くことを通して，追究する意欲の持続と視点の転換 (3)子どもの想いを充分に出させる工夫 <ul style="list-style-type: none"> ○話し合い活動や「書くこと」の中で自分の考えの根拠をもたせる工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・学習の整理や自己の考えの見直しや新たな学習視点を生み出させる工夫 ・他の意見の聞き方の指導の工夫 (4)一人一人に応じたきめ細かな指導 <ul style="list-style-type: none"> ○子どもに付けたい力を把握し伸ばす工夫
平成16年度	<p>テーマ</p> <p>「一人一人が生き生きと活動し，豊かに表現する子ども」</p> <p>子どもの意欲が基礎・基本</p> <p>研究の見通し</p> <p>教育活動において，次のような手だてをこうじれば，確かな学力が身につく，学ぶ楽しさやわかる喜びを体得して一人一人が生き生きと活動し自分の考えを豊かに表現できる子どもを育成できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)学級経営の充実 (2)生活意欲の持続とその高揚 (3)学習意欲の持続とその高揚 (4)子どもが生きる教材の発掘 (5)東山東タイムの充実 <p>研究内容や方法</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)学級経営の充実 <ul style="list-style-type: none"> 自分を表現できる学級の柱作り (2)生活意欲の持続とその高揚 <ul style="list-style-type: none"> 課題を持つ子ども 活動の場作り 学習評価が生きる授業展開 (3)子どもが生きる教材の発掘 <ul style="list-style-type: none"> 育てる子どもが登場する教材開発 (4)子ども一人一人が生きる授業 <ul style="list-style-type: none"> 評価と指導の一体 一人一人の問題等の解決のためのきめ細やかな指導のあり方や指導方法の改善 (国語科，算数科の授業研究を中心として) わかる喜び，じっくり追究する価値などを体得 (5)教育課程の改善と工夫

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1 研究成果

研究課題にせまる取組み

せまる手だて

- ・めざす子ども像の明確化と具体的なその手だての確立。
- ・主題に迫る教材の開発とねらいの明確化。
- ・学習活動の中でわかったこと，疑問をもったこと，考えのよりどころ等の把握とその助言。

1 実践例

(ア) 学習意欲の持続と高揚の工夫実践(第1学年 国語科 単元「くじらぐも」)

豊かに表現する子ども像と手だて

自分の思ったこと考えたことをありのままに表現する力を持つ子ども。

ねらいにせまる指導者の出番と動作化で子ども育てる。

評価の観点

- 話す
- ・はっきりとした発言。みんなに聞こえる声の大きさ。
 - ・経験したことを話す。
 - ・順序を考えて話す。
 - ・感じたことを話す。

聞く おたずねができる。

読む 大きな声で読める

順序や場面の様子を思い浮かべて想像豊かに読む

(イ) 子ども一人一人が納得しわかる授業の創造と教材の実践（第6学年 国語科単元「海の命」）

単元で育てたい子ども

- ・強制的に指名されないと発言できない子どもには正答かそうでないかをあまり意識せずにする教材である。子どもたちの出番が多くなりそれぞれの子どもを活躍させたい。
- ・根拠に説得力の弱さを見受ける子ども，「～と書いているから」という段階の子どもには自分の解釈をつけさせる。
- ・多面的な要素を持った教材である。そこで，反論されるとすぐに自分の考えを修正する子どもには再反論させたい。

せまる手だて

- ・話し合いに参加しやすい体制づくりと発言した喜びを持たせる。
- ・一人一人が話し合っている内容を理解できているかのチェックと把握する。
- ・自分の考えの結論を的確に言ってその後理由を述べさせる。

2 成果

(1) 子ども像と研究主題にせまる授業

1年国語「くじらぐも」に乗った場面だけを考えさせようとする指導者であったが、飛び乗ろうと飛び跳ねたりする場面を含めて飛び乗った気持ちを発言する子どもがいた。指導者はこの子どもの発言の根拠を読み取り、授業の方向を修正しより主題に近い子どもを育成に取り組む。

さらに、子どもたちの雲のくじらに飛び乗ろうとする気持ちを、くじらぐもの応援する気持ちからも考えさせようと、文中の「ふきとばしました」「あつというまにふきとびました」の言葉を、一人一人の持っている力の中で発言させる。この活動は子ども相互で学び合わせ「豊に表現する子ども」の基礎を育てようとする意図が見えた授業である。

6年国語の実践では、主題にせまるために事前に、考えを持たせる場面、自分の考えと対比して聞く場面、さらに自分の考えを見直し膨らませる場面、次時への意欲の持続と学習後の活動のための課題作りの場面と、授業の中で子どもを育てるという指導展開を子どもの動きを含めて立てた。そのために教師の発問が的確に子どもに理解することができた。

(2) 動作化を取り入れ子どもの思考活動・学習意欲の活発化

1年の授業の中で動作化を取り入れ OHP 上の「くじらぐも」に自分の人形を乗せる。子どもたちは人形をどの場所に乗せたかということで、自分が雲に乗っている立場で素直な発言つぶやきが出た。子どものつぶやきを聞き取り生かすことが大切である。操作や動作化などの場面で、的確な指示と子どもの動きや言葉を読み取ることの大事さがわかる。

1年の学習のまとめとして「一番好きなくも」を自分の言葉で書かせた。同じ雲でも見方が異なるので聞き手にわかる読みに挑戦した。

(3) 評価を生かし子どもが理解する授業

6年国語の実践では、本時の学習のねらいに即して評価項目を下記のように設定し授業記録や子どもの記録、学習態度を通して評価した。1時間の評価項目を作成することは授業のめあてや何を活動させるかなどが指導者としても子どもを具体的に
[学習後の子ども (アンケート集計)]
見ることができた。さらに、本時の授業のねらいを明確にするすることの大切さをつかむ。

授業後子どもにアンケートをとる。

- ・指導者は自己の考えを表現しやすい教材のとらえた

ように、授業の中では一人だけの意見でも自身を持って発言していたように子どもたちは発表に対する自信を深めている。

- ・簡潔適切な発問が、子どもにどんなことを考えれば良いのかを分かりやすくしたことも自信を助けている。

- ・1割の子どもが自分の考えを出しにくいといっている。この実態を謙虚に踏まえたい。

(海の命 (7/9 時) 指導展開案の一部)

2 今後の課題

(1)子ども一人一人が納得しわかる授業の創造

子どもの疑問を1時間の学習でどれだけ解決をし、どのような理解のかのという把握の仕方に課題が残る。その課題は

- ・抵抗感なく自由な学級の雰囲気のもとで学校生活を送ることができる学級経営。
- ・豊かな発想で自分の言葉で話すこと。
- ・自由な発想で自分の言葉で書くこと。等の取組みの中で子どもの考えをつかむこと。等である。

学習前に一人一人の考え方を書か、学習後に今日の授業で一番考えたこと、あるいは友達の発言を聞いてなるほどと感心したこと、授業を終えてもまだ心の中がすっきりしていないこと。などをもとにする。などの学習評価の課題もある。

(2)学習意欲の持続と高揚の工夫

私たちは計算できること、漢字が書けることなどを大切にしながらも、子どもの学習意欲の向上と学習の質の高まりを求めている。そこで、

- ・子どもがハッと驚き、子どもの考えを覆させる教材、既習事項が使える問題解決ができる学習課題の発掘。
- ・「授業は子どもの疑問で始まり子どもの疑問で終わる。」授業。
- ・1時間ごとの評価を生かした授業展開計画。等々の課題追求をしたい。

(3)一人一人に応じたきめ細かな指導

- ・T・T指導を算数科でも試みた。子どもに教科の基本的理解事項や技能の習得(練習と繰り返し)と子どもが主体的に進める学習の授業研究。

(4)教育課程の工夫

学力把握のための学校の取組み

和歌山県下一斉の学力調査の目的・趣旨に準じ11月26日に実施

フロンテースクールとしての研究成果の普及

研究成果普及のための活動計画予定

- ・本年度研究成果冊子を配布(3月)
- ・成果の発表と課題説明(保護者 4月)(学校関係者 10月)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- | | | | | |
|-------------------|------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------|-----------------------------|
| 【新規校・継続校】 | <input type="checkbox"/> 15年度から新規校 | <input type="checkbox"/> 14年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | <input type="checkbox"/> 6学級以下 | <input type="checkbox"/> 7～12学級 | | |
| | <input type="checkbox"/> 13～18学級 | <input type="checkbox"/> 19～24学級 | | |
| | <input type="checkbox"/> 25学級以上 | | | |
| 【指導体制】 | <input type="checkbox"/> 少人数指導 | <input type="checkbox"/> T・Tによる指導 | | |
| | <input type="checkbox"/> 一部教担性 | <input type="checkbox"/> その他 | | |
| 【研究教科】 | <input type="checkbox"/> 国語 | <input type="checkbox"/> 社会 | <input type="checkbox"/> 算数 | <input type="checkbox"/> 理科 |
| | <input type="checkbox"/> 生活 | <input type="checkbox"/> 音楽 | <input type="checkbox"/> 図画工作 | <input type="checkbox"/> 家庭 |
| | <input type="checkbox"/> 体育 | <input type="checkbox"/> その他 | | |
| 【指導法の改善に関わる加配の有無】 | <input type="checkbox"/> 有 | <input type="checkbox"/> 無 | | |